
そう、きっと。

藍沢茉結

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そう、きっと。

【Nコード】

N9698P

【作者名】

藍沢茉結

【あらすじ】

“手を繋いで欲しい”とは恥ずかしくて言えないから。
だから合図を出すの、気付いてる？

「ねー寒いっ」

その言葉は、“手を繋いで欲しい”の合図だった。

「んーそう？」

ねえ、気付いてるの？

それとも、気付いてないの？

いつもそうやって、はぐらかす。

『手繋いでもいい？』

そう言えないのは、拒否されるのが怖いから。

だって言わなければ、“気付いていないだけ”っていう逃げ道が作れるから。

きっとこれから、私は言わない。

気付いてくれるまで、受け入れてくれるまで待ってる。

冬の寒空の下。

感覚のなくなった冷たい手。

多分、あなたの手も冷たいでしょう。

私と変わらないくらい、冷たいのだと思うけれど。

重ねればきっと、温かい。

「しょーがねーな」

ポケットから取り出した手。
絡めた指。

——ほら、温かい。

E n d ∴

（後書き）

：なんだこれなんだこれ（笑）

寒かったっていうそれだけで、頭に出て来たのをそのまま文章にしてみました^^；

実は勉強中にルーズリーフにしゃしゃーって書いた物W
ちなみに1枚にも満たないです（爆）

楽しんでいただけたなら幸いですW

それでは。

ここまで読んで下さった皆様に最大の愛と感謝を。

With love...

ありがとうございました!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9698p/>

そう、きっと。

2011年1月8日22時54分発行